

武庫川流域委員会 第5回まちづくりWG会議概要報告

文責：まちづくりWG主査 田村博美

開催日時 2005/12/16（金） 14時から16時 場所 宝塚商工会議所会議室
出席委員 伊藤、岡田、奥西、草薙、佐々木、田村、中川、長峯、村岡の各委員

議事概要

1. 流域各市及び県民局へのアンケート内容について（継続） 別添参考資料参照
各委員で分担の上作成。各市と武庫川との関わりを考慮したアンケートとした。
環境WGからの要請で、環境サイドからの質疑事項を併せて調査したほうが良いとの意見があり、早急に対応を図ることとした。
配布回収は、12/19第31回委員会後事務局から配布し、1/17までに回収予定。まちづくりWGでの検討等を経て、1/30第33回流域委員会で報告したい。
2. 「川の駅」構想について（継続）
武庫川と周辺都市、まち、農山村、森林地域との交流、連携拠点、ソフト、ハードの様々な地域資源との連携、ネットワーク、多様な情報発信基地、協働的活動の拠点、休憩、案内拠点など複合的で多様な目的を果たす、さらに上流、中流、下流の連携のための概念として提案している。理念と必要性については概ね各委員の意見が一致しているが、「川の駅」というネーミングから来街者や通過客を対象とした「道の駅」のような施設と誤解される恐れがある。主要な対象者は地域住民とすべきである。また、河川防災ステーションとの兼用という案もあり、目的、役割等をもう少し明確にする必要がある。
出来るだけ新たなコストをかけず、既存の民間、公共、公益施設を兼用すべきである。地域の様々な資源を活用しこれらと武庫川をネットワークすることを考えるべきである。
武庫川周辺に限らず流域や氾濫域を対象とした、ソフト、ハードの関連資源や活動対象を含めて検討したらどうか。それらに対し例えば「武庫川川の駅」「武庫川塾」「武庫川川まち塾」といった名称をあたえ連携と協力体制を整備するのはどうか。
武庫川百選のようなことを考えても面白いのではないか。
以上の議論を踏まえ各委員が以下のような切り口で内容を検討することとした。
A: 交流、啓蒙、協力、協働、観察、集まり、PR、憩う、眺める、楽しむ、道しるべ、説明、勉強・学習する等
B: 防災、逃げる、防ぐ、予防、点検、備蓄等
Bについては防災ステーションや地域防災計画との関連もあり佐々木委員が中心となり検討する。また、具体の検討を行うにあたり「武庫川カルテ」が有用と考え、年明けまでに田村が主要部分を完成し、事務局から各委員に配布する。
3. まちづくりWGとしての超過洪水対策
まちづくりWGでどこまで提案できるか分からないが、ハード対策ソフト対策を含めて検討する。
建て替え時の対策、地域の中高層マンションとの連携、コミュニティとしての対応等奥西委員、岡田委員等が中心となり検討を進めることとした。
4. 武庫川の景観について
事務局から提供のあった各市の資料を基に田村が分析中であり次回WGまでに提示の予定。
5. 次回まちづくりWG会議について
1/18（水）13時半から場所は未定